

ばんけい

教育ほんといっしょ

かわら版

こみち
教育の小径

No.103

2017 May

5月号

国士舘大学教授
北 俊夫先生

今月のひとば

ところか しか
所変われば品変わる

土地が違ふと、そこに
住む人々の生活習慣や
風習などが変わって
くることをいいます。こ
こでの「所」とは住む
場所のこと。「品」に
は事情とか状態といっ
た意味があります。

研究授業—どこを見られているか

- 授業の観察者は、授業者の一挙手一投足に注目しています。授業を観察すると、日ごろの学級経営のあり方や子どもたちの育ち具合が見えてきます。
- 授業者と子どもたちとのやり取りをとおして、本時の目標（ねらい）がどのように実現されていくか。観察者は授業の結果とともに、それに至る過程を見守っています。

今月の
記念日ローマ字の日
(5月20日)

たなかだてあいきつ
物理学者の田中館愛橘はローマ字国
字論を展開しました。命日は昭和2
7年（1952年）5月21日です
が、ローマ字社が昭和30年（19
55年）に、きりのよい20日を記
念日にしたそうです。

授業者の一挙手一投足に注目

各学校では、教師の資質能力の向上を目指して、校内研修を充実させています。特に授業力を身につけるために、多くの学校では研究授業を実施しています。授業を観察した後は協議を行い、授業研究を深めています。

研究授業を行う授業者は殊のほか、緊張して当日を迎えます。このことは子どもたちも同様でしょう。

授業は、主として言語による教師と子どもたちの「共同作品」です。授業の観察者は、教師の発問や指示などの言葉かけに、子どもたちがどのように反応しているかに注目します。また、教師は黒板に何をどのように記述し、子どもはノートやワークシートにどのようなことを書いているかを観察しています。観察者は授業者の指導によって、子どもたちがどのように学んでいるか、教師と子どもによる「共同作業」の様子を見ているといえます。

研究授業の場における観察者の位置や場所は、多くの場合教室の後方や側面が一般的です。前方から見ると、授業の邪魔になることがあるからです。そのために、観察者は授業者と正対している関係にあります。子どもたちを正面から観察することはできにくく

なっています。こうした条件から、観察者は授業者の言葉かけだけでなく、身ぶりや表情などの動きをつぶさに観察することができます。

授業の観察者は指導の目標がどのように実現されていくかを確認しています。つまずきがちな子どもなど一人一人への対応の仕方には特に関心をもって観察しています。授業者の一挙手一投足にも注目しています。授業者のすべてが観察されているといえます。

このことは、授業者が日ごろからどのような子どもを育てているか。子どもはどのように育っているか。子どもの学習状況を観察しながら、日ごろの学級経営や指導のあり方にも関心をもってしていることを意味しています。

観察者の関心は教室環境にも

研究授業は事前に作成された学習指導案にもとづいて実施されます。観察者は本時の目標（ねらい）がどのように実現されていくか。板書された事項も参考にしながら、授業の結果や成果だけでなく、それに至る過程にも注目しています。これは授業観察の第一義的な目的です。

ところが、観察者は学習指導案に具体的に示されていないことについて関心をもってしています。観察者のなかに

は、授業を観察しながら教室内の掲示物に目を向けている人がいます。掲示板には、これまでの授業で活用された資料や作成された作品などが掲示されており、これまでの授業の経緯が理解できるからです。

教室には、本時の授業と直接関わりのない掲示物もあります。それらを見ると、日ごろの学級経営の一端を垣間見ることができます。

観察者のなかには教室環境に関心をもってしている人もいます。研究発表会では、教室や廊下の掲示物を写真に撮っている人がいます。もちろん事前に了解を得ることは必要です。研究授業に当たって、教室内外の掲示物にも配慮しておく必要がありそうです。

研究授業で見られているのは、学習指導案に示されたことだけではありません。学習指導案には具体的に書かれていないことや、授業の周辺にある掲示物や子どもの育ち具合など、日ごろの学級経営にも関心をもって観察されることを肝に銘じておくことが必要でしょう。このことを観察者の立場からいえば、観察者には授業を多方面から総合的に観察する力が求められるということです。



校内外の連携力

教室などで、子どもがけがをした。嘔吐した。火災に遭遇したなど危機的な状況が発生したとき、まず問われるのは担任の状況の把握力です。これはその場がどのような状況なのかを冷静にかつ正確に把握することです。この段階で状況を甘く見るなどつまずいてしまうと、このあとの対応を誤ってしまうこともあります。

次は、把握力と一体に発揮される判断力です。その場が担任だけで対処できるのか。周囲の先生方に応援を得る必要があるのか。このことを判断できるのはその場にいる担任だけです。判断するとは、どのように対処するかを瞬時に選択・決定することであり、これはきわめて高度で重要な能力です。

担任だけでは対処できない場合には大声を出したり、子どもに連絡させたりして、周囲の先生に知らせます。

実際に遭遇すると気が動転するものです。周囲の子どもたちが動揺しないように、冷静な対処が求められます。担任がその現場を離れることは望ましくありません。校内の教職員と連携し、チームで問題解決することが必須の要件です。また、家庭に連絡しながら対処する必要もあります。特に病院に搬送するときには保護者の了解を得ることも必要になります。

各学校では、危機的な状況が発生したとき、どのように対処するかを定めたマニュアルを作成しています。基本的にはそれにもとづいて問題を解決していきます。しかし、事案は多様に発生し、マニュアルどおりにいかないことも多々あります。校内外の連携力を発揮し、状況に応じた臨機応変な対応が求められます。

教育の動向



特別の教科「道徳科」

小学校では来年度から、特別の教科「道徳科」が実施されます。授業では文部科学省から検定を受けた教科書を使います。評価は数値ではなく、文章で表すなど従来の教科とは違いがあります。「特別の教科」に位置づけられた道徳の授業は、これまでと同じでよいというわけにはいきません。

昨年7月にとりまとめられた「『特別の教科・道徳』の指導方法・評価等について（報告）」には、従来の道徳授業の問題点が数多く指摘されています。例えば、読み物資料に登場する人物の心情の読み取りのみが偏重された

こと、授業が「導入・展開・終末」の3段階で構成され、形式的な指導になっていたこと、生活上の個別の課題を考えさせることはよくないとされたことなどがあげられています。

先の報告は、これからの授業に対して次のような指導を求めています。

- ・読み物教材の登場人物に自分を投影して、判断したり心情を考えさせたりする。（自我関与）
- ・人生で出会うさまざまな問題について議論しながら、主体的に考える。（問題解決的な学習）
- ・役割演技（ロールプレイング）などで、実感を伴った理解を促す。（体験的な学習）

「考え、議論しながら理解を深める道徳授業」への展開が求められます。

シリーズ 研究授業の目 12のポイント 7

活動は連続しているか

学習指導案には子どもの学習活動や教師の発問などが計画されています。それらを見ると、学習活動が連続していなかったり、発問間に必然性や発展性が見られなかったりすることがあります。このような授業では、子どもの思考が途切れてしまいます。深まりのある理解も期待できません。

授業者にはその時間にやり終えたいことがあります。終了の時間も気になります。授業の進行役は教師ですが、授業者の思いが先行すると、子どもの姿勢は受動的になってしまいます。

「子どもが学習活動をつくる」といわれます。「○○のことはわかったが、□□のことがまだわからない」など子どもが疑問を発する授業、「次に○○について調べたい」「もう少し時

間がほしい」など子どもが学習の仕方を提案する授業は、子どもの活動が連続しています。子どもの思考や理解が途切れずに深まっていくからです。

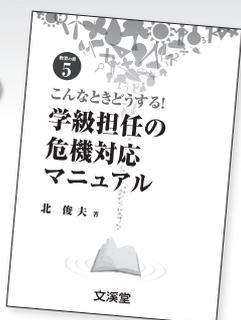
そのためには、教師は次の学習活動を促したり、次の発問を問いかけたりするタイミングを見きわめることが大切です。具体的には、子どもの活動において達成された状況だけでなく、疑問やつまずきなどを生かしながら次の学習活動につなげていきます。子どもの反応を生かしながら次の発問を投げかけることがポイントです。

授業者に求められることは、子どもの発言やつぶやき、表情やふるまいなどの観察力、子どもの真意をくみ取る洞察力や理解力、その場での臨機応変な対応力です。たとえ緻密に作成された学習指導案であっても、授業のなかで一部修正されることもあります。

INFORMATION

こんなときどうする! 学級担任の 危機対応 マニュアル

◎著者 北 俊夫
◎定価 950円+税
◎発行 株式会社文溪堂
A5判 96ページ



学級担任として こんなとき、どうしますか?

～目次より～

- 「不審者」が校舎内を歩いている
- 給食中、胸の痛みを訴えた
- 学校で物が無くなった
- 頭の毛を茶髪にしてきた
- 理科の実験中に事故が発生
- 通知表の内容についてクレームなど

編集後記

新採のころ、先輩先生方の前で初めて授業を行ったときのことを思い出すと、今でも冷や汗が出ます。授業後の研究会も、まさに沮上の鯉の思い。

優れた研修システムとして世界から注目される授業研究、大切にしたいものです。（F記）

企画・編集：ぶんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2017年5月1日